

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)



出願人代理人

藤村 元彦

様

あて名

〒 104-0045

東京都中央区築地4丁目1番17号
銀座大野ビル 藤村国際特許事務所PCT
国際予備審査機関の見解書
(法第13条)
[PCT規則66]発送日
(日.月.年)

17. 8. 2004

出願人又は代理人

の書類記号

PCT01-02094

応答期間

上記発送日から 2 月以内

国際出願番号

PCT/JPO3/06143

国際出願日

(日.月.年) 16. 05. 2003

優先日

(日.月.年) 01. 08. 2002

国際特許分類 (IPC)

Int. Cl. G11B7/0065, G06K7/12, G06K19/00

出願人 (氏名又は名称)

パイオニア株式会社

1. ☐ 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と ☐ みなされる。
☐ みなされない。
2. この 1 回目の見解書は、次の内容を含む。
- ☒ 第I欄 見解の基礎
 - ☐ 第II欄 優先権
 - ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 - ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
 - ☒ 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
 - ☐ 第VII欄 国際出願の不備
 - ☒ 第VIII欄 国際出願に対する意見
3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。
いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。
- どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。
- なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。
- 応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。
4. 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、
PCT規則69.2の規定により 01. 12. 2004 である。

名称及びあて先

日本国特許庁 (IPEA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

様 広行

5D

3046

電話番号 03-3581-1101 内線 3550

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

- ☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。
- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
- ☐ PCT規則12.4にいう国際公開
- ☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____	ページ、	出願時に提出されたもの
第 _____	ページ、	付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____	ページ、	付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____	項、	出願時に提出されたもの
第 _____	項、	PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____	項、	付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____	項、	付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____	ページ/図、	出願時に提出されたもの
第 _____	ページ/図、	付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____	ページ/図、	付けて国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- | | | |
|--|---------|-------|
| <input type="checkbox"/> 明細書 | 第 _____ | ページ |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ | 項 |
| <input type="checkbox"/> 図面 | 第 _____ | ページ/図 |
| <input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること) | _____ | |
| <input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) | _____ | |

4. ☐ この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- | | | |
|--|---------|-------|
| <input type="checkbox"/> 明細書 | 第 _____ | ページ |
| <input type="checkbox"/> 請求の範囲 | 第 _____ | 項 |
| <input type="checkbox"/> 図面 | 第 _____ | ページ/図 |
| <input type="checkbox"/> 配列表 (具体的に記載すること) | _____ | |
| <input type="checkbox"/> 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) | _____ | |

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-5	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-5	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-5	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1 JP 64-014731 A (パイオニア株式会社)
1989.01.18, 全文 & US 4989195 A1
文献2 JP 8-329472 A (パイオニア株式会社)
1996.12.13, 全文 & US 5684773 A1

請求の範囲 1-5

見解書において新たに引用した文献1, 2には、一台の装置で複数の光ディスクを再生可能な光ディスク及び光ディスク再生装置について記載されており、光ディスクの特定部位に当該光ディスクの種類を特定するための識別情報を記録しておき、光ディスクを再生する際には前記識別情報に基づいて再生条件を変化させることが記載されている。

文献1, 2記載の技術を周知のホログラム記録媒体及びホログラム再生装置に適用し、識別情報を回折格子で記録し、当該識別情報に基づいて記録データの再生条件を変化させることに格別の困難性はない。

第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

明細書第6頁には「再生された基準データとホログラム記録再生装置のメモリ内の基準データの差分が、この記録媒体を記録したホログラム記録再生装置の記録誤差と自己の再生誤差の合計E1となる。この記録媒体に記録されているデータの再生に対して、差分E1を加味してデータの復調を行うことにより、再生されたデータが所定データと異なっているとしても、正しく所定のデータが再現できる。」と記載されているが、明細書中において、基準データの具体例、再生誤差の合計E1を導出する手法、E1に基づいてデータの復調を行う手法等について何等例示されていないために、基準データとしてどのようなデータ配列のものを採用し、どのような差分導出方法、データ復調方法を採用すれば正しいデータを再現できるのかが不明である。本願明細書は本願発明を実施するに際して当業者に期待しうる程度を超える試行錯誤を要求するものであるから当業者が実施可能な程度に記載されたものではない。

